

第149回 令和8年1月6日（火）

「令和8年が始まりました。今日からまた新しい気持ちでスタートです。3年生は大切な受験、そして卒業して新たな生活が始まる記念すべき年です。目標を立ててそれに向かって突き進んでください。」

今日は年明けに関する知識をお伝えします。

みなさんの家では門や玄関に門松や松飾りを飾りましたか？あれは誰に向けて飾っているのでしょうか。実はお正月は「年神様」という神様がいらっしゃる日とされています。年神様の大事な服を間違って捨ててしまわないよう、お正月は掃き掃除をしないことになっています。だから年末にすす払いや大掃除をしておくということにもつながっています。

「明けましておめでとうございます。」というのは年神様へのご挨拶の意味もあります。これを言うのは基本的には「松の内」と呼ばれる1月7日までとされています。7日には疲れた胃をいたわるために七草がゆをいただく習慣があります。

松の内が終わるころ、近所の氏神様の神社や公民館などで「どんど焼き」が行われることがあります。ここでお団子を焼いて食べたりするのですが、お正月気分から通常モードに変わる機会となります。

元旦と言うのは1月1日の朝のこと。旦という字をよく見てください。地平線から日が昇っていますね。私も近所の歩道橋の上から毎年初日の出を拝んでいます。例年6時50分くらいに上っていますが、ここ何年も天気が悪くて見られなかったという記憶がありません。

昔は個人で誕生日を祝う習慣がなく、誰もが年明けに1歳年をとる「数え年」でした。1月1日は無事に年をとることができた誕生日の意味もあったわけです。

良いことばかりではなく、江戸時代から借金の返済は「盆と暮れ」の2季と決まっていました。お盆と年の瀬にはお金を返さなくてはいけないということで、借金のある人は金策にかけまわることになります。「無事に正月を迎える」という言葉の意味はここからきています。

お年玉はもともと年神様への感謝を込めた供物の意味を持っていました。昔は子どもたちが大人になる前に不幸にも命を落とすことも多かったので、年神様から子どもたちに幸運を分け与えるということで贈り物をする文化になったようです。それがその後現金などの金品になりました。

いまでは現金ではなく電子マネーでもらうお年玉もあるそうです。

あらためてお正月の文化を調べてみるのも面白いかもしれません。